

められている。

我が国の市町村数は、明治 20 年代の大合併、昭和 30 年代の大合併により、再編が進んできた。さらに平成の大合併により、平成 11 年 3 月末で 3232 市町村が、平成 18 年 4 月 1 日には 1820 に激減して来ている。

そこで、本研究では市町村合併により広域的な基礎自治体を創設する動きがある中で、移動や交流等に制限を受ける恐れのある障害者の日常生活圏域と保健福祉サービスとの関連に着目し、障害者の生活の質を向上させていくための保健福祉サービスや当事者の活動のあり方について考察した。

B 研究方法

研究方法は、以下の通りである。

1. 対象

対象は、A政令指定都市(市街地区部)と、合併した B 町に在住する 21 名である。

調査期間は平成 18 年 10 月 27 日～12 月 28 日であった。

2. 方法

研究協力者となった自治体の保健福祉職員と大学教員と接点のある障害者から、調査協力の得られた対象者に、調査員による聞き取り調査を行った。

3. 調査内容

調査内容は、以下の 1)～7)の 7 領域である。

1)健康状態および活動状況、2)家族構成および居住年数、3)外出状況、4)保健福祉サービスの利用状況、5)日常生活圏域、6)地域と人とのかわりや住民の自主活動との関わり、7)保健・福祉の職員との関わりと保健福祉サービスやまちづくりへの参画等である。

5. 分析方法

統計解析には統計パッケージ SPSS 15.0J for

Windows を使用した。

6. 倫理的配慮

倫理的配慮として、調査協力者には、質問紙の配布時に依頼文にて本研究の意義や目的、方法について説明するとともに、調査結果の公表により市町村および個人を特定されることはないことについて説明した上で、調査協力を依頼した。

C 研究結果

1. 回答者の属性

回答者は 21 人で、男性 14 人(66.7%)、女性 7 人(33.3%)であった(表1)。平均年齢は全体では、 47.7 ± 12.8 歳、男性 50.4 ± 13.6 歳、女性 42.1 ± 9.5 歳で女性のほうが約 8 歳若かった(表2)。

2. 健康状態および活動状況

種類別の障害者数を表3に示した。身体 8 人、精神が 8 人で知的障害者は 5 人であった。手帳は 18 名が保持し(表4)、自立度は自立が 13 人、Jランクが 6 人、Bランクが 1 人であった。屋外の外出の状況は介助不要が 14 人、部分的に要介助が 3 人、全介助が 1 人であった(表5)。

活動状況について複数回答で答えてもらったものを表6に示した。一般就労が 3 人あり、通所施設・小規模作業所・職親の利用者は 8 人、障害の種類別の団体やネットワークの中で当事者活動をしている自助グループへの参加者は 12 人、その他は 5 人であった。

3. 家族構成および居住年数

家族構成は、単身者は 5 人(23.8%)で、そのほかの 16 人は家族や親族と同居していた。居住年数は 10 年未満は 1 人で、20 年未満 4 人、30 年未満 5 人、30 年以上と生まれて以来ずっとは 11 人あり、居住年数は比較的長いことが伺われた。

4. 外出状況

どの障害者も食料品の購入のための買物に出かけており、介助を要しない人は、週に1回以上、15分以内のところに出かけていた(図1、図2、図3)。利用する商店はスーパーやコンビニ、農協、生協などであった。移動の手段は、都市部の障害者は、バスや地下鉄を利用し、それぞれ生活の場や職場からの交通のルート内に、あるそれぞれ異なるスーパーやコンビニ、郵便局・銀行などに外出している。合併した町では、自転車や徒歩でいける場所にあるスーパーやコンビニ、農協や郵便局を利用している。

障害者別にみても、知的障害者の金融機関や医療機関への外出は少なく、生活行動範囲は買物に限られていた。身体障害者と知的障害者は、地域とのつながりは薄く、社会参加は、障害者団体が主催する障害者スポーツ大会など障害者のための行事などに限られていた。

精神障害者の外出先は、医療機関と通所施設、自助グループなど多少種類が多くなっていた。しかし、通院はほとんどの者が中心部の病院へ定期的に行っているが、その後どこかに寄り道して買物をする等は行っていなかった。

また、杖歩行のためスムーズな移動が困難な身体障害者(Jランク)は、バスの乗降が無理なため、移動手段はタクシーのみとなり、その活動範囲は1.5kmと狭かった。都市部では、車椅子を使用すれば一人でも介助なしで外出できる者(Jランク)は、週に1回～月1回は地下鉄を利用し自宅から30分以内のスーパーや本屋に出かけている。また、家族と同居し、家族が運転する車で移動ができる車椅子を使用している者(Bランク)は、当事者団体の活動やピアカウンセリングなどの活動を活発に行っていた。

5. 地域の人々との交流や自主活動地への参加

近隣との付き合いは、ごみ出しや犬の散歩で挨拶する程度はあり、自宅か友人宅で友人と会うといったつながりは3割程度あったが、近隣との付き合いはあまりないことが伺われた(表7)。

身近な地域感は、隣組、地区、町会の範囲が大半であり、約半数は「参加している地縁組織は無い」と回答していた(表8、表9)。自治会や公民館の地域の活動へ約半数はかかわってなく、以前参加したものとして、祭りやイベント、バザー等であった。公民館、医療機関、NPOサポートセンターを活動の拠点としている住民の自主的な活動への参加は2割強あった(表10)。しかし、障害の種類にかかわらず、出かけるところは障害者同志が集う場所に限られがちであることが伺われた。

都市部では、障害者同士の交流や活動が、障害者種別に組織され行われているが、合併した町では、3障害の障害者が町の保健センターを拠点として一緒に活動が行われている。本調査の依頼にあたって、都市部では研究協力者を通して、障害種別毎に協力依頼を行ったが、合併した町では研究協力者となった保健師を通して3障害が合同で活動している仲間同士に協力依頼でき、聞き取り調査も町の保健センターに集っている場で実施した。

6. 保健福祉サービスの利用

保健福祉センターは全体で約半数の者が利用していたが、そのほとんどは精神障害者であった(表11)。利用目的は「健康相談」やサービスの調整を受ける「総合相談」を受けることと保健福祉センターで行われる「社会復帰事業への参加」であった。サロンは全体の半数強の者が利用していたが、身体障害者と精神障害者の利用が多く、保健福祉センターや障害者団体事務所(身障協会、社業所)が開催するスポーツ大会や食事会等の行事への参加であった(表

12)。

都市部においては、保健福祉センターは、精神障害者を除いて、知的障害者や身体障害者は何か相談事がないと出かけることがないが、合併した町では、どの障害者も保健センターを拠点として、保健福祉職員らの見守りや参加の下にサロン活動などが行われていることが伺えた。

7. 保健福祉の職員との関わりや保健福祉サービスやまちづくりへの参画

行政職員とのかかわりは「役場の事務職員」がもっとも多く、ついで「保健福祉センターの保健師」、「保健所の保健師」であった(表 13)。職員とのかかわりの内容は、制度に関する相談や制度利用の手続きに関することがほとんどで、保健福祉センターで開催される行事の際に接点があるといった状況のようであった。保健福祉サービスのあり方やまちづくりに関して意見を求められるかについては、障害者自立支援法の施行後にサービスの利用のしやすさや通所施設のサービス内容の確認や満足度など、行政が行うサービスに対する利用者の評価が求められるものであった(表 14)。

8. 地域に無くなると困るもの、欲しいもの

最後に地域に無くなると困るものとほしいもの、大切にしているものについて尋ねたところ、無くなると困るものとしては、「スーパー」や「コンビニ」、「農協」・「生協」などの日常的に買物するところや、「駅」、「無料バス」等の交通手段、「病院」、「グループホーム」等の施設、「祭りや子供の運動会」などであった。

欲しいものは「働く所」、「書店」、「タクシー券」、「JR・飛行機の減免制度」、「街灯」等であった。

大切にしていることは、挨拶や笑顔などの人との交流であった。

9. 障害者の日常生活圏域

障害者が日常的に買物や地域の人との交流、保健福祉サービス利用のために行動する範囲を聞き取りマップにドットして行動範囲を描き、その半径を求めた。全体の平均的な距離は、7.3kmであった。地域別では都市部では7.2km、合併した町では7.4kmであった(表 15)。性別では男は5.1km、女は7.3kmであり、障害別では、知的障害者は10.2km、身体障害者は7.2km、精神障害者は5.6kmの順であった(表 16)。ここで、知的障害者の距離が広がっているのは、遠くへのバスの送迎付の福祉的就労による者があることによる。

就労していたり通所サービスを利用者している週に数日以上外出する障害者(主にJランク)の平均的な行動距離は11.5kmで、行き先は保護的な事業所や通所施設、NPOの活動拠点、行政福祉部門である。知的障害を持つ者と自立度が低い者(Bランク)の平均的な行動距離は2.9kmと短かった。いずれも行き先から他へ回るといった行動は少なく広がりには欠ける傾向が伺われた。

D. 考察

障害の種類、自立度により障害者のニーズは異なることが明らかにされたが、今回の対象者数は21名と少なく、今後、調査の対象者を増し、諸要因を探索する必要がある。この限られた範囲での調査結果ではあるが、以下のことが示唆された。

1. 日常生活圏域

身近な地域と感じる範囲は、隣近所、地区、町会の範囲が大半(87.7%)であった。

週1回以上でかける場所として日常生活圏域において、最も頻度の高いものは、食料品など

の買物、通所施設である。買物先は、自宅や就労や通所先の近くのスーパーやコンビニである。行動範囲は徒歩でも自転車でも15分以内が無理のない日常的な生活圏域になっている。

知的障害者や精神障害者の生活圏域は、友人や家族の支援があれば広がり、身体障害者は移動の手段が確保されれば広がり、活発な当事者活動も行われている。しかし概して障害者の行動は点から点への移動に終わりがちで、行った先からさらに行動範囲が広がるといったことは少なく、点から面へと生活圏域が形成されにくい。障害者にとっては、出向いた先で、さまざまなサービスが利用でき、かつ行動範囲を広げるきっかけとなるようなサービス提供のあり方の検討が必要ではないだろうか。

2. 地域の人々との交流や社会参加

・地域の人々との交流

隣組や地区班、町会などの地縁組織に参加している者は約半数(43.8%)であった。しかし、障害者自身が地域での共同の活動に参加している者は少なく、近隣とのつながりは薄く日常的に近隣は身近な存在にはなっていない。災害時の防災や救護として近隣とのつながりを期待できる状況ではない。

・障害者の交流

障害の種類にかかわらず、障害者の交流は障害者同志の友人や通所施設の職員、保健師を含む役場職員、当事者団体あるいはNPO職員に限定されがちである。都市部では、障害種別の団体やネットワークが形成され、それぞれの行政への意見や要求を出す活動や当事者同士のピアカウンセリング等を行っている者もいる。合併した町では、保健師などのサポートにより、

政職員との食事会などに参加している。

これらの交流活動は、働きかけの工夫によって、さらに当事者自身が主体的に企画し参加できる機会とでき、保健福祉サービスのあり方とともに考えていく機会ともできよう。また、地縁や血縁の結びつきが弱まっている地域の中で、障害者と障害を持たない地域の人々との関係性は、調査時点では、災害時に互いに気遣うようなものではなかったが、上記のような障害者同士やその支援者との交流活動によるサポート的な関係性があることは、障害者らと力を合わせていくことによって、障害を持たない人々とのネットワーク形成へつながっていくことも期待されよう。

3. 保健福祉サービスやまちづくりへの参画

精神障害者には日常的に相談機能を果たしている。このような機能が身体障害者や知的障害者にも提供されるサービスの提供体制の検討も必要であろう。また、知的および身体障害者にとっての行政の保健福祉サービスは、年に数回開催される障害者同士のつながりをつくる行事等「場の提供」や、障害関連の制度を利用する「手続き」に終わっていることが伺えた。

今後、福祉サービスの場合、障害者自立支援法の実施に伴い、直接的なサービス提供は委託先の施設職員やNPOによりなされることが多くなっているが、これらの職員の質の担保が保健福祉サービスの提供体制の課題となろう。

さらに、行政には、障害者自身による活動がさらに積極的におこなわれ社会参加が広がることにより、QOLの向上させていくことや、障害者自身が、日常生活圏域の中で地域の中で他の障害者や高齢者などのために必要なサービスの担い手になれるような機会や場の提供も求められよう。これらのことは、災害時などに相互に配慮し合えるようなつながりをもてるような契機と

もなろう。

障害者の地域での日常生活の質を高めていくことは、日々の活動の範囲がひろがっていくことによって、いろいろな体験をふやしていくこと、そして、その中で人とひとつつながりを深めていくことによって、安心して日々の生活を送っていくようにしていくことではないかと考える。点と点との線的なつながりから、それらのつながりを深め合い、面としてつながりに発展させ、それが幾重にも形成されることが必要である。このようなつながりの中でこそ、互いの生活を気遣い合う関係ができ、緊急時や災害時に声をかけあい、助け合うことができる地域となっていくのではないかと考える。本調査では、いわゆる健常者では持ち得ない連帯感を持った障害者同士や支援者との関係性が障害者の日常生活圏域において形成されていることが伺えた。この関係性が同じ日常生活圏域に住む地域の人々との間にもひろがり、面としてのつながりが重層的につくられていくと、その地域は誰もが安心して住める地域となっていくのではないかと考える。行政の保健福祉のサービスのあり方も、障害者が身近な地域と感じ、互いの生活に関心を持ち合える日常生活圏域を意識して、こういったつながりを広げ深めていく視点をもって、提供していくことが必要ではないかと考える。

E. 結語

数少ない障害者への聞き取り調査ではあるが、身体障害者の場合は、家族や福祉サービスにより移動手段が確保されれば、活動範囲が広がり、自ら必要な保健福祉サービスを求めていける。知的・精神障害者の場合は、家族及び友人や知人がいれば活動範囲を広げていける。

週1回以上でかける場所として日常生活圏域において最も頻度の高いものは、食料品などの

買物、通所施設である。彼らの生活の質を向上させていくためには、この日常生活圏域内に必要な保健福祉サービスの提供拠点を置くことができるかと活用しやすいのではないだろうか。買物で出かける市の中心街にあり、買物のついでにサービスが利用でき、さらに交流を広げていくことができよう。また、これらの機会に保健福祉職員や関係者とともに、保健福祉サービスのあり方などについても自らの体験を通し話し合う機会を得ることにより、身近な地域に住む他の障害者や高齢者が求めているサービスを知り、何か出来ることを見つけていく機会とでき、サービスの受け手ではなく担い手ともなりえることも期待できよう。さらに、男性には近隣地域と交流を持つきっかけとなるような障害者によるピアサービス等が身近なところで提供されることが望まれる等が示唆された。

謝辞

寒い時期、聞き取り調査対象の選定に協力くださいましたA県の研究協力者の方々、また聞き取り調査に協力いただきました障害者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

参考・引用文献

1. ヒューマックス編, 仲間どうして【聞く・話す】ピア・重カウンセリング, オーエス出版, 2001

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし
3. 特許の取得及び申請予定
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

平成18年度市町村合併に伴う日常生活圏域と保健福祉サービスの提供のあり方等に関する調査
アンケート集計結果

表1：性別

男	女	合計
14人	7人	21人
66.7%	33.3%	100.0%

表2：年齢

	平均値	標準偏差
男性	50.4	± 13.6
女性	42.1	± 9.5
合計	47.7	± 12.8

表3 障害の種類

知的	精神	身体	合計
5人	8人	8人	21人
23.8%	38.1%	38.1%	100.0%

表4：保持する免許の種類

なし	身体障害者手帳あり	療育手帳あり	精神障害者保健福祉手帳あり	その他	無回答	合計
2人	8人	5人	5人	0人	1人	21人
9.5%	38.1%	23.8%	23.8%	0.0%	4.8%	100.0%

表5：屋外の外出

自立 (介助不要)	部分的に介助	全介助	無回答	合計
14人	3人	1人	3人	21人
66.7%	14.3%	4.8%	14.3%	100.0%

表6-1：活動状況

している	していない	合計
20人	1人	21人
95.2%	4.8%	100.0%

表6-2：活動状況の内訳

一般就労	通所施設・小規模作業所・職親	デイサービス	自助グループ	その他	合計
3人	6人	2人	12人	5人	20人
15.0%	30.0%	10.0%	60.0%	25.0%	100.0%

図1:食料品の買物

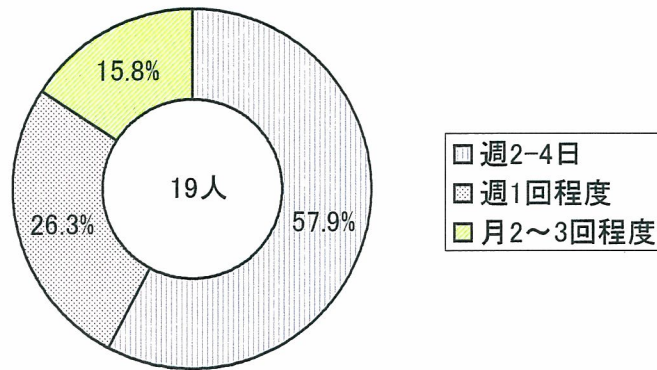


図2:食料品買物の手段

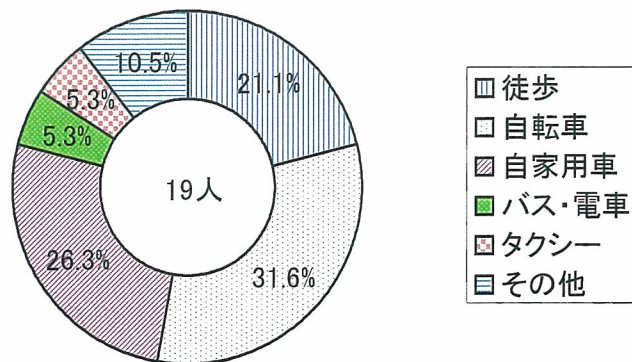


図3: 食料品買物にかかる時間

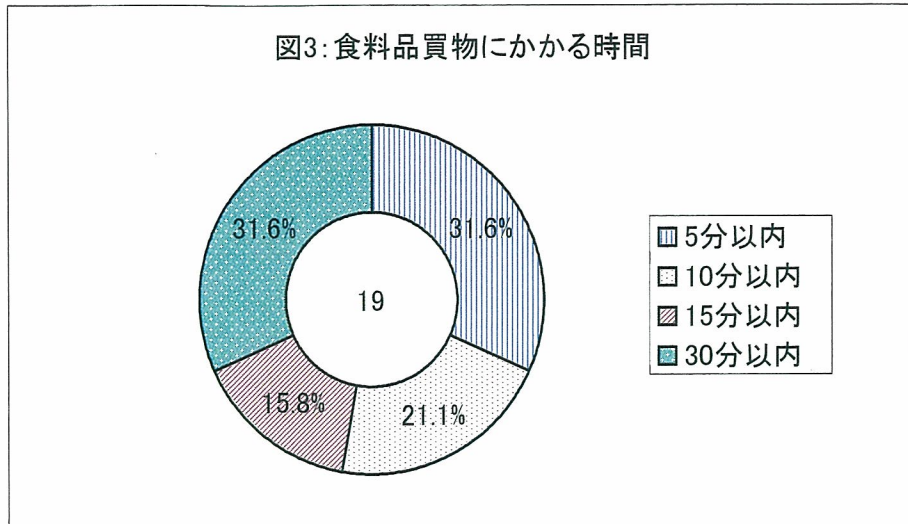


表7: 地域の人々との交流

会った	会っていない	無回答	合計
12人	7人	2人	21人
57.1%	33.3%	9.5%	100.0%

表8: 「身近な地域」と感じる範囲

隣近所	マンションや 団地の一面	町会・自治 会	小学校区	中学校区
13人	2人	5人	1人	0人
61.9%	9.5%	23.8%	4.8%	0.0%
市町村全域	商店街までの 道のり	その他	合計	
3人	1人	1人	21人	
14.3%	4.8%	4.8%	100.0%	

表9: 参加している地縁組織

隣組	地区(班)	字会・町会 ・自治会	檀家
5人	3人	2人	2人
23.8%	14.3%	9.5%	9.5%
氏子会	ない	無回答	合計
2人	10人	4人	21人
9.5%	47.6%	19.0%	100.0%

表10：自主的な活動への参加

参加している	参加していない	合計
5人	16人	21人
23.8%	76.2%	100.0%

表11：保健センターの利用

行った	行かなかった	わからない	合計
10人	11人	0人	21人
47.6%	52.4%	0.0%	100.0%

表12：サロンの利用

利用する	利用しない	わからない	合計
12人	9人	0人	21人
57.1%	42.9%	0.0%	100.0%

表13：行政職員との関わり

ある	ない	合計
19人	2人	21人
90.5%	9.5%	100.0%

表14：行政職員から意見をもとめられたり、尋ねられたこと

ある	ない	その他	無回答	合計
7人	11人	0人	3人	21人
33.3%	52.4%	0.0%	14.3%	100.0%

表15：地域毎にみた日常生活圏域（km）

地域	平均値	度数	標準偏差
美里町	7.4	11	5.1
仙台市	7.2	10	8.6
合計	7.3	21	6.8

表16：障害の種別毎にみた日常生活圏域（km）

障害の種類	平均値	度数	標準偏差
知的	10.2	5	6.6
精神	5.6	8	2.1
身体	7.2	8	9.6
合計	7.3	21	6.8

地区名： ()

ID

障害者版質問紙

平成 18 年度日常生活圏域と保健福祉サービスの提供のあり方等に関する調査票

いまから、普段の外出の様子や人との交流などについて伺います。時間は大体 1 時間程度です。

問 1 性別→質問せず、あてはまるほうの番号に○を記入

1. 男 2. 女

問 2 年齢はおいくつですか。 歳 (平成 18 年 1 月 1 日現在を記入してください)

問 3 この市町村に住まわれてどの位ですか。→あてはまる番号一つに○を記入。(○は一つだけ)
※5 と 6 両方の人は 6 のみに○。

1. 1 年未満 2. 1 年以上 5 年未満 3. 5 年以上 10 年未満
4. 10 年以上 20 年未満 5. 20 年以上 30 年未満 6. 30 年以上
7. 生まれて以来ずっと

問 4 現在、どなたかとお住まいですか。家族構成を教えてください。→あてはまる番号一つに○を記入。
(○は一つだけ)

1. 単身 2. その他 ()

問 5 現在、何か活動をされていますか。→しているとこたえた場合は、さらにその内容をきいてください。

1. している →→ ア・一般就労
イ・通所施設・小規模作業所・職親
ウ・デイサービス
エ・自助グループ
オ・その他 ()
2. していない

日ごろの生活（暮らしている様子）についてお伺いします。

問 6-1 日頃の生活の中でどなたかのお手伝いが必要なことはありますか

介助の程度	室内移動	屋外の外出	食事・入浴・排泄などの身の回り	その他（介助が必要な事がありますか）
自立（介助不要）				自由欄：
部分的に介助				
全介助				
車いすの利用	あり／なし	あり／なし		

該当するところに○をお願いします。

※「介助」とは身体的に支援するだけでなく、判断や確認などにも援助が必要かどうかを確認してください。

問 6-2 上記の質問をした上で、調査員記入：以下の自立度でいうとどれにあてはまりますか。

（自立～B2の中からあてはまるものに○）

自立	ゼロ	ランクJにあてはまらない（何らかの障害もない）ほど元気
J1	ランクJ	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する（単に移動に介助が必要かではなく、一人で外出できるかについて確認してください）
J2		1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
A1	ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない
A2		（一人でお留守番できる、来客などの対応ができるなど） 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
B1	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ（室内も誰かの見守りを要する）
B2		1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する

問 7 現在、身体障害者の手帳をお持ちですか。

1	なし
2	身体障害者手帳あり； 級・主な障がいの種類 ()
3	療育手帳あり； 級
4	精神障害者保健福祉手帳あり； 級
5	その他 ()

日頃のおでかけについて、買い物、銀行や郵便局、もしくは通院などの3つの外出についてお伺いします。この3つのなかでよく出かけるのはどれでしょう？

- ・ 買い物なら→問8から順に
- ・ 銀行や郵便局なら→問10から質問して、あと「問8 買い物」と「問12 病院クリニック」を
- ・ 通院なら→問12から質問して、あと「問8 買い物」と「問10 銀行・郵便局」を

まず、**買い物**などのお出かけについて伺います。

問8 日頃、ご自身で買い物に行くことがありますか？

1. ある→問9へ 2. ない→問10へ

問9 問8で1.「ある」とこたえた方に対して質問。

- ①品物 ②場所 ③介助の有無 ④頻度 ⑤交通手段 ⑥時間について質問し、該当に○

複数ある場合には、その他頻度の高いものを記載。

①品物	②場所 具体的な場所 や商店名（後で 地図におとせ るよう）	③介助の有無 有り→誰と	④頻度	⑤交通手段	⑥行くまでに かかる時間
食料品 例：肉、魚 野菜 弁当、総菜、 菓子など		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月回程度 5. その他 ()	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 ()	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()

生活雑貨		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月 回程度 5. その他 []	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 []	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()
衣料品 ①下着類 ②①以外		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月 回程度 5. その他 []	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 []	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()
嗜好品 例;酒やタバコ、 あるいは お花や手芸用品等		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月 回程度 5. その他 []	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 []	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()
その他		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月 回程度 5. その他 []	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 []	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()

次に**銀行や郵便局**へのお出かけについて伺います。

問 10 日頃、ご自身で銀行や郵便局に行きますか？

1. 行く→問 11 へ 2. 行かない→問 12 へ

問 11 問 10 で 1. 「行く」とこたえた方に対して質問。

①品物 ②場所 ③介助の有無 ④頻度 ⑤交通手段 ⑥時間について質問し、該当に○

複数ある場合には、その他頻度の高いものを記載。

銀行や郵便局に複数通っている場合には、その他頻度の高いものを記載。

①	②場所 具体的な場所や 商店名（後で地 図におとせるよ う）	③介助の有 無 有り→誰と	④頻 度	⑤交通手段	⑥行くまでにか かる時間
もつとも行く 所	名称や支店名な ど	無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘル パー、ガイド ヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週 2-4 日 3. 週 1 回程度 4. 月 回程度 5. その他	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他	1. 5 分以内 2. 10 分以内 3. 15 分以内 4. 30 分以内 5. 1 時間未満 6. 1 時間以上 7. その他 ()
次に行くところ (あれば)		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘル パー、ガイド ヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週 2-4 日 3. 週 1 回程度 4. 月 回程度 5. その他	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他	1. 5 分以内 2. 10 分以内 3. 15 分以内 4. 30 分以内 5. 1 時間未満 6. 1 時間以上 7. その他 ()

次に**病院やクリニック**への受診や通院の状況について伺います。

問 12 日頃、ご自身の受診や通院のために病院やクリニックに行きますか？

1. 行く→問 13 へ 2. 行かない→問 14 へ

問 13 問 12 で 1. 「行く」とこたえた方に対して質問。

①場所 ②介助の有無 ③頻度 ④交通手段 ⑤時間について質問し、該当に○をする。

病院・クリニックが複数ある場合には、その他頻度の高いものを記載。

	①場所 具体的な病院や クリニック名（後 で地図におとせ るよう）	②介助の有 無 有り→誰と	③頻 度	④交通手段	⑤行くまでにかか る時間
もっとも行く 所		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘル パー、ガイド ヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週 2-4 日 3. 週 1 回程度 4. 月 回程度 5. その他 〔 〕	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 〔 〕	1. 5 分以内 2. 10 分以内 3. 15 分以内 4. 30 分以内 5. 1 時間未満 6. 1 時間以上 7. その他 ()
次に行くところ (あれば)		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘル パー、ガイド ヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週 2-4 日 3. 週 1 回程度 4. 月 回程度 5. その他 〔 〕	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 〔 〕	1. 5 分以内 2. 10 分以内 3. 15 分以内 4. 30 分以内 5. 1 時間未満 6. 1 時間以上 7. その他 ()

問 14

上記以外で、よく行くところがありますか？

→ここで住民活動や保健センターに事柄がでたらそちらで質問して、ここには記入しない（パチンコや個人個人で申し込む学習もの、旅行などはこちらで）。

①場所 ②介助の有無 ③頻度 ④交通手段 ⑤時間について質問し、該当に○をする。
病院・クリニックが複数ある場合には、その他頻度の高いものを記載。

	①場所 具体的な病院や クリニック名（後 で地図におとせ るよう）	②介助の有 無 有り→誰と	③頻 度	④交通手段	⑤行くまでにか かる時間
よく行くところ		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月 回程度 5. その他 〔 〕	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 〔 〕	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()

次に**地域の人や近所の人との交流**について伺います。

問 15 この1週間くらいの間に地域の人や近所の人と会いましたか？

*この場合の「会う」とは、偶然会って挨拶を交わしたなどの程度は含まれず、何か目的をもって会いに行ったり、来てもらったりしたことを指します。

1. 会った→問 15へ 2. 会ってない→問 16へ

問 16 問 15で1.「会った」とこたえた方に対して質問。

① 何処で(場所) ②介助の有無 ③どの位の頻度で ③交通手段は ④そこに行くまでにかかる時間は、
について質問し、該当に○。複数ある場合には、その他頻度の高いものからを記載。

	①何処で？ 具体的な場所や 町名（後で地図に おとせるよう）	②介助の有無	③頻 度	④交通手段	⑤行くまでにかか る時間

もっとも会う人		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月 回程度 5. その他 〔 〕	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 〔 〕	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()
次に会う人 (あれば)		無し 有り→誰と 1) 家族 2) その他 (ホームヘルパー、ガイドヘルパー)	1. ほぼ毎日 2. 週2-4日 3. 週1回程度 4. 月 回程度 5. その他 〔 〕	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自家用車 4. バス・電車 5. タクシー 6. その他 〔 〕	1. 5分以内 2. 10分以内 3. 15分以内 4. 30分以内 5. 1時間未満 6. 1時間以上 7. その他 ()

身近な地域について伺います。

問17 あなたにとって「身近な地域」と感じる範囲はどこまでですか。以下の中からあてはまる番号全てに○を記入。(○はいくつでも)この場合の「地域」とは、たとえば永年その土地に住んでいる人なら「このあたりまでが地元」と感じたり、「自宅からこのあたりまでなら顔見知りな人が多く住んでいる場所と感じている」のような一帯を指します。

1. 隣近所 2. マンションや団地の一画 3. 町会 4. 自治会 5. 小学校区
6. 中学校区 7. 市町村全域 8. 駅までの道のり 9. 商店街までの道のり
10. その他 ()

問18 この地域に対する愛着はどの程度でしょうか。
以下の中からあてはまるものの番号1つに○を記入。(○は1つだけ)

1. 大いにある 2. どちらかといえばある
3. どちらかといえば薄い 4. とても薄い 5. わからない

問 19 問 18 でそのように思われる理由を教えてください。そのまま記入

自治会や何々会など自治体などではじめから構成員や会の目的などが決められているような組織

(地縁組織) とあなたとのつながりについて伺います。

問 20 あなたが参加しているものはありますか。 以下の中からあてはまる番号全てに○を記入。

(○はいくつでも) *ここでいう「参加する」とは、かかわりの多少にかかわらず関係していると思っ
ている

地縁組織にはすべて○を選択。

- | | | | | | |
|-----------|----------|--------------|----------|--------------|------------|
| 1. 隣組 | 2. 地区(班) | 3. 字会・町会・自治会 | 4. 商店街組合 | 5. 子ども会 | |
| 6. 婦人会 | 7. 青年会 | 8. 老人会 | 9. 壮年者の会 | 10. 防災協会・消防団 | |
| 11. 農業委員会 | 12. PTA | 13. 体育協会 | 14. 檀家 | 15. 氏子会 | 16. その他() |
| 17. ない | | | | | |

問 21. これまでに自治会や公民館の活動に関わったことはありますか?

以下の中からあてはまる番号全てに○を記入。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 以前、役員をしたことがある(自治会・公民館活動) →問 23-1へ |
| 2. 現在、役員や実行委員である(自治会・公民館活動) →問 22へ |
| 3. 以前、役員が企画してくれた行事に参加したことがある(自治会・公民館活動) →問 23-1へ |
| 4. 現在、役員が企画してくれた行事に参加している(自治会・公民館活動) →問 22へ |
| 5. いずれにも企画したことも参加したこともない →問 23-1へ |
| 6. その他() →問 23-1へ |

問 22 現在、参加している(あるいは、企画している)と答えた方に伺います。それはどのような活動で
すか。以下の中からあてはまる番号全てに○を記入。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1. 祭りなどのイベント | 2. 廃品回収やバザーなど | 3. 映画会や講演会 |
| 4. 地域の食事会や飲み会 | 5. 地域の旅行会 | 6. 公民館活動(スポーツ) |
| 7. 公民館活動(文化系) | | |
| 8. その他() | | |